

令和2年7月豪雨災害 支援活動報告と募金のお願い

「令和2年7月豪雨」で被災された皆さま並びにご家族の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。グリーンコープでは各県のグリーンコープ生協を通じて支援活動に取り組んでいます。引き続き皆さまのご協力をお願いします。

「令和2年7月豪雨災害」 支援募金の受付状況について					
17号	18号	19号	20号	21号	累計金額(円)
294,200	28,630,200	14,269,900	8,742,900	7,283,500	59,220,700

7月6日～8月8日迄(17号～21号)の5週間で「59,220,700円」となりました。ご厚意に深く感謝し、災害支援活動の中で大切にさせていただきます。ありがとうございます。

「パキスタンアル・カイルアカデミー ムザヒル校長先生」からのメッセージ

災害発生時の衣類提供支援でも活躍している「ファイバーリサイクル(衣類)」について、NPO法人JFSAの依知川理事長を通じて、「パキスタンアル・カイルアカデミー ムザヒル校長先生」から、この度の水害被災にあわれた方々へのお見舞いのお手紙が届けられました。遠く外国の地から、今回の災害のことを心配されて励ましのメッセージをいただきました。以下にご紹介いたします。

グリーンコープ 共同体理事会の皆様へ 【あなた方のお住まいの地域における豪雨、洪水について】
尊敬するグリーンコープ 組合員、職員の皆様、私たちは、あなた方の地域を含む日本の九州で豪雨と洪水が被害をもたらしたことをメディアで知り、非常に心配し、悲しんでいます。多くの貴重な人命が失われ、また膨大な物質的被害ももたらしています。このような災害が過去に我が国で頻繁に発生しているのを私が直接目にしたことがあるので、この状況を心に思い浮かべることは非常に悲しく苦痛です。現段階では、あらゆる人的、物質的なサポートを提供したいと考えていますが、災害で人命を失った方々へ祈りを捧げ、多大な物質的損失を被った方々にお悔やみを伝えることを除いて、私たちはそれを行うことができません。私たちの側から深い哀悼の意を表します。そして人間の支配を超えた前述の災害に平等に影響を受け悲しんでいることを感じてください。神の祝福により、あなた方すべてに繁栄と安定がもたらされますように。すべての皆様へ敬意を表します。



ムザヒル校長先生

ムハンマド・ムザヒルとアル・カイル福祉協会の全メンバー(カラチ)より

令和2年7月豪雨災害支援募金

申込番号	012	1□200円
	013	1□500円
●OCR申込書の通常申込欄へ□数を記入してください。2桁の数量を申し込む場合、特別申込欄に、申込番号「013」、数量欄に「10」と申し込まれると500円×10□=5000円として受付けます。		
●組合員のみなさまからの救援金(カンパ)は、グリーンコープが責任を持って取りまとめ、各支援団体とともに被災地域の救援活動などに役立てます。		

グリーンコープの災害支援活動の案内ページが新しくなり、「令和2年7月豪雨」のページを設けています。インスタグラムのリンクもあります。



福岡県	大牟田支部エリア内の被災地域で「CO・OP 共済《たすけあい》及び火災共済」に加入されている組合員宅（１０８世帯）の戸別訪問活動に取り組みました。コープ共済連とグリーンコープ共済連の担当者２名が２日間かけて一軒一軒のお宅を回り、被災状況を聞き取り、お見舞金や共済金請求がないか案内しました。「CO・OP 共済」の戸別訪問活動は、災害支援募金の活動ではありませんが、たすけあいの輪で被災された組合員の経済的負担を少しでも助けることが出来ればとの思いで訪問しています。被災地支援の大切な取り組みのひとつとしてご報告します。	 訪問活動担当と支部理事 長、支部福祉委員長
-----	--	--

大分県	日田市の天ヶ瀬温泉街で、被災された組合員さんが経営している喫茶店・旅館に支援物資をお届けしました。ご近所で被災された方やボランティアで来られた方にも活用いただけるよう、応援セット・飲料をお届けしています。８日には、組合員・職員有志７名で、先日も支援を行った九重町野上地区で庭の泥だしを行いました。庭の雑草の下に５ｃｍ位の泥が入っており、所有者は高齢で障害もあることから自分では片付けられないため、庭の雑草と不要な木の切り出し、土表面の泥のかき出しを行っています。最初は見るからに茂っていた庭がすっきりと片付き、「一人じゃとてもで きんわ、ありがとう」と喜んでいただきました。	 雑草を切り出した後、表面 の泥をかき出しました
-----	--	--

熊本県		
	● 現在も芦北町、人吉市、球磨村を中心に家屋からの土砂出し、瓦礫撤去廃棄をグリーンコープ職員、ワーカーズ職員、組合員を中心に行っています。現地では、新型コロナの感染拡大を憂慮し、他県からのボランティア受け入れを積極的に行っていません。グリーンコープにおいても最近の感染拡大の状況を受けて、県をまたぐ支援活動は自粛しています。この悩ましい状況は、今後もしばらく続きそうです…。 ● キープ&ショップ人吉は、災害支援ステーションとして支援物資等を地域の方々に提供する役割を継続しています。また、毎週２回ワーカーズによる炊出しを行い、地域の方々やボランティアメンバーに温かい食べものが振る舞われています。 ● 新型コロナの感染拡大は、避難所での炊出しにも影響しています。８月６日以降、行政から炊き出しの中止が案内され、球磨村の避難所での炊出しは中止しました。地域の炊出しは、「密」にならないよう継続されるため、グリーンコープでは炊出し用の食材提供で支援していくことにしています。 ● 避難所で生活されている皆さんの健康管理の観点から、牛乳、ヨーグルト、納豆等を希望される避難所３カ所に定期的にお届けしています。 ● 弁当は、人吉市の下新町、上新町と球磨村渡、一勝地にある避難所せせらぎに毎日お届けしていましたが、復旧が進む中で、８月１０日より球磨村渡（２５食）、一勝地にある避難所せせらぎ（１０食）になっています。	
球磨村（神瀬地区）	８月になってやっと車が入れるようになった球磨村の神瀬地区の支援にも新たに取り組んでいます。神瀬地区は、全国ニュースで流された園庭の「このせほいくえん１２０メイヒナン」SOS 空撮映像を覚えている方も多いのではないのでしょうか？ 村北部の山間部に位置し、被災から１カ月近くが経った今でも川沿いの家屋は土砂に埋まったままです。災害前は約１００世帯が生活していたということですが、支援開始当初は２世帯しか自宅に戻れず、水道も復旧していない状況です。これから本格的に家財の片付けなどが始まり、避難所から自宅に戻って来られる方や見出し仮設に移られる方など様々な状況への対応が求められています。グリーンコープでは、自宅の後片付けなどで作業する方へ飲料水やゴム手袋などを提供したり、洗濯が出来るように水タンクや洗濯機を設置したり、被災地域の要望を聞きながら、細やかな支援を行っています。	 